

GS00SBC マニュアル

2013/06/27 1.6



CAS電子出版
<cas-ub.com>

目 次

第1章 概要	1
1-1 GS00SBC とは	1
1-2 新たに追加される変換元と変換先のファイル形式	2
第2章 準備	3
2-1 必要なソフト	3
2-2 環境変数の設定	4
2-3 OpenOffice/LibreOffice のリッスンモードの起動	7
2-4 OpenOffice/LibreOffice のリッスンモードの終了	10
2-5 OpenOffice/LibreOffice のリッスンモードと GUI の同時実行に関する問題	10
第3章 変換の流れ	12
3-1 PDF 出力	12
3-2 イメージ出力	13
3-3 Flash(SWF), SVG, INX, and XPS 出力	15
第4章 実行	17
4-1 プログラムの起動	17
4-2 環境変数	17
4-3 実行例	18
第5章 コマンドラインオプション	23
第6章 技術資料	26
6-1 スペースを含むファイル名について	26
6-2 ソースパスワードとターゲットパスワードの違い	27
6-3 出力ファイル名の決定方法	27

6-4 Server Based Converter のオプションファイル ..	28
6-5 OpenOffice/LibreOffice の PDF エクスポートオプション ファイル	30
6-6 GhostScript のオプションファイル	38
改訂履歴	42
図一覧	44
索引	46

第1章 概要

1-1 GS00SBCとは

GS00SBCは、Server Based Converter, GhostScript, OpenOffice または LibreOffice を使って、次の変換を可能にするソフトです。

- 1) OpenOffice または LibreOffice のファイルを、PDF や各種イメージ形式など Server Based Converter がサポートしている出力形式に変換できます。
- 2) 現在の Server Based Converter の Linux 版は、各種イメージ形式への変換をサポートしていませんが、GS00SBC を使うと、Linux でも各種イメージ形式への変換ができます。
- 3) MS Office から PDF への変換など、Server Based Converter で可能な変換は、GS00SBC でも可能です。

以上のように、GS00SBC は、Server Based Converter の機能を拡張し、利用範囲を広げるソフトです。

以下の説明では、

Server Based Converter を SBC と略します。

OpenOffice を OO、LibreOffice を LO と略します。

OO/LO は、OpenOffice/LibreOffice を意味します。

GhostScript を GS と略します。

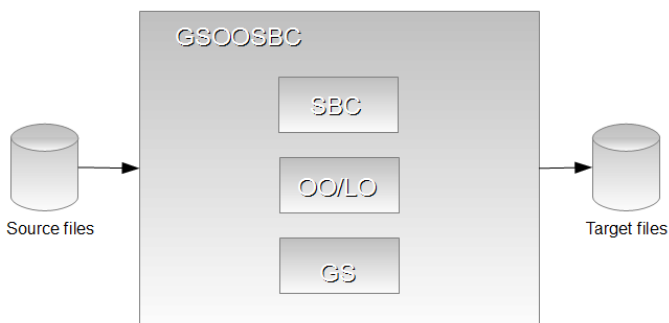


図 1.1 GS00SBC components

1-2 新たに追加される変換元と変換先のファイル形式

GS00SBC が変換できる変換元、変換先のファイル形式は、以下の通りです。

これらは、すでに SBC がサポートしているものに追加されるものです。

新たな変換元ファイル形式

00/L0 のファイル

拡張子が以下のもの。

.odp

プレゼンテーション

.ods

表計算

.odt

ワープロ

新たな変換先ファイル形式

GS がサポートしている出力ファイル形式

第2章 準備

2-1 必要なソフト

GS00SBC を実行するには、以下のソフトがインストールされていて、正常に動作することが必要です。

Server Based Converter

Server Based Converter V4.0 以上。日本語を正しく処理するためには、あなたのフォント環境に合わせて、font-config.xml でフォントを適切に設定してください。フォントの設定については、Server Based Converter のマニュアルを参照してください。

Java

JDK 1.7.0_05 以上

OpenOffice/LibreOffice

OpenOffice 3.4 以上、または、LibreOffice 3.5 以上

GhostScript

GhostScript 9.06 以上。日本語 Windows で、日本語を正しく処理するためには、日本語 Windows 用 GPL GhostScript を使ってください。その他のプラットフォーム用 GPL GhostScript で、日本語を正しく処理するためには、あなたのフォント環境に合わせて、フォントを適切に設定してください。フォントの設定については、GhostScript のマニュアルを参照してください。

ダウンロード場所

Java

<http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/index.html>

OpenOffice 日本語版

<http://www.openoffice.org/ja/>

OpenOffice 英語版

<http://www.openoffice.org/>

LibreOffice 日本語版

<http://ja.libreoffice.org/>

LibreOffice 英語版

<http://www.libreoffice.org/>

日本語 Windows 用 GPL GhostScript

<http://www.khotta.org/ghost/index.html>

その他のプラットフォーム用 GPL GhostScript

<http://www.ghostscript.com/download/gsdnld.html>

我々のテスト環境

Ssrrver Based Converter V4.0MR2 日本語版

Window 7 Professional 32bit

JDK 1.7.0_05

OpenOffice 3.4 日本語版

LibreOffice 3.5 日本語版

GhostScript 9.06 日本語版

2-2 環境変数の設定

GS00SBC の実行前に、以下の環境変数を設定してください。
パスが空白を含む場合は、ダブルクォート (") で括ってください。

SBC の環境変数

SBC の Java インターフェイスが実行できるように、SBC のマニュアルにしたがって、環境変数を設定してください。

JAVA_HOME

JAVA_HOME には、Java がインストールされているフォルダ/ディレクトリを設定してください。

Windows

Java が、

c:¥jdk1.7.0

にインストールされているなら、


```
set JAVA_HOME=c:¥jdk1.7.0
```

Linux

Java が、

```
/usr/local/java/jdk1.7.0
```

にインストールされているなら、

```
export JAVA_HOME=/usr/local/java/jdk1.7.0
```

GS00SBC_HOME

GS00SBC_HOME には、GS00SBC がインストールされているフォルダ/
ディレクトリを設定してください。

Windows

GS00SBC が、

```
c:¥gsoosbc
```

にインストールされているなら、

```
set GS00SBC_HOME=c:¥gsoosbc
```

Linux

GS00SBC が、

```
~/gsoosbc
```

にインストールされているなら、

```
export GS00SBC_HOME=~/gsoosbc
```

00_PROG_PATH

00_PROG_PATH には、00/L0 の実行プログラムのパスを設定してください。

00/L0 のファイルを変換しないのなら、このステップは省略でき

ます。

Windows

00の実行プログラムが、

```
C:¥Program Files¥OpenOffice.org 3¥program¥soffice.exe
```

なら、

```
set 00_PROG_PATH="C:¥Program Files¥OpenOffice.org 3¥program  
¥soffice.exe"
```

L0の実行プログラムが、

```
C:¥Program Files¥LibreOffice 3.5¥program¥soffice.exe
```

なら、

```
set 00_PROG_PATH="C:¥Program Files¥LibreOffice 3.5¥program  
¥soffice.exe"
```

Linux

00の実行プログラムが、

```
/opt/openoffice.org3/program/soffice
```

なら、

```
export 00_PROG_PATH=/opt/openoffice.org3/program/soffice
```

L0の実行プログラムが、

```
00_PROG_PATH=/opt/libreoffice3.5/program/soffice
```

なら、

```
export 00_PROG_PATH=/opt/libreoffice3.5/program/soffice
```

GS_PROG_PATH

GS_PROG_PATHには、GSの実行プログラムのパスを設定してください。

GSによるイメージ出力をしないのなら、このステップは省略できます。

Windows

GSの実行プログラムが、

```
C:¥Program Files¥gs¥gs9.06¥bin¥gswin32c.exe
```

なら、

```
set GS_PROG_PATH="C:¥Program Files¥gs¥gs9.06¥bin¥gswin32c.exe"
```

Linux

GSの実行プログラムが、

```
/opt/ghostscript-9.06-linux_x86_64/gs-906-linux_x86_64
```

なら、

```
export GS_PROG_PATH=/opt/ghostscript-9.06-linux_x86_64/gs-906-linux_x86_64
```

2-3 OpenOffice/LibreOfficeのリッスンモードの起動

GS00SBCを実行する前に、00/L0をリッスンモードで動かす必要があります。

00/L0をリッスンモードで動かすには、%GS00SBC_HOME¥¥bin ¥start-oo.bat や \$GS00SBC_HOME/bin/start-oo.sh が使えます。

リッスンモードで使うポート番号のデフォルトは、8100です。

警告: 複数の00またはL0を同時に起動することは、トラブルの原因になりますので、行わないでください。

Windows

- (1) コマンドプロンプトを実行します。
 - (2) start-oo.bat を実行します。
- L0 の起動には、'libre' パラメータを使います。

```
cd %GS00SBC_HOME%\bin
```

00 の場合、

```
start-oo.bat
```

L0 の場合、

```
start-oo.bat libre
```

00/L0 の動作確認

別のコマンドプロンプトを実行して、

```
netstat -anp tcp
```

を実行してください。

```
TCP 127.0.0.1:8100 0.0.0.0:0 LISTENING
```

のような行があれば、00/L0 がポート番号 8100 のリッスンモードで動作しています。

%GS00SBC_HOME%\bin\start.bat は、環境変数 00_PORT によって、リッスンするポート番号を変更できます。

8200 にする場合

```
set 00_PORT=8200  
start-oo.bat
```

または、

```
set 00_PORT=8200  
start-oo.bat libre
```

Linux

- (1) ターミナルソフトを実行します。
- (2) `$GS00SBC_HOME/bin/*.sh` には、実行可能パーミッションをつけてください。

```
cd $GS00SBC_HOME/bin
chmod +x *.sh
```

- (3) 00/L0 を起動します。
- L0 の起動には、'libre' パラメータを使います。

```
cd $GS00SBC_HOME/bin
```

00 の場合、

```
start-oo.sh
```

L0 の場合、

```
start-oo.sh libre
```

00/L0 の動作確認

別のターミナルソフトを実行して、

```
netstat -anp --tcp | grep 8100
```

を実行。

```
tcp 0 0 127.0.0.1:8100 0.0.0.0:* LISTEN 19348/soffice.bin
```

のような行があれば、00/L0 がポート番号8100のリッスンモードで動作しています。

`$GS00SBC_HOME/bin/start.sh` は、環境変数 `00_PORT` によって、リッスンするポート番号を変更できます。

8200 にする場合

```
export 00_PORT=8200
./start-oo.sh
```

または

```
export OO_PORT=8200
./start-oo.sh Libre
```

2-4 OpenOffice/LibreOffice のリッスンモードの終了

リッスンモードで動いている OO/L0 は、以下の方法で終了できません。

ただし、強制終了になるので、変換途中など何か処理中に終了させると、変換が正常に終了しない可能性があります。

Windows

タスクマネージャを実行して、プロセスタブで、soffice.exe を選択し、プロセスの終了ボタンを押します。

Linux

```
ps ax | grep soffice
```

で、OO/L0 のプロセス ID(PID) を得て、

```
kill -9 PID
```

で、終了します。

2-5 OpenOffice/LibreOffice のリッスンモードと GUI の同時実行に関する問題

OO または L0 を、リッスンモードと GUI で、同時に実行しないでください。

OO/L0 の同時起動について、2012/08/16 時点で判明していることは次の通りです。いずれも Windows で確認した動作です。

OO/L0 をリッスンモードで起動しているマシンでは、GUI の OO/L0 を起動することはできません。違う場所にインストールされた 2 つ

の00/L0を使ってもできないようです。

GUIの00/L0を先に起動してから、リッスンモードの00/L0を起動することはできますが、GUIを終了するとリッスンモードの00/L0も終了します。

以上から、リッスンモードとGUIの00/L0の同時起動は、できないと考えるべきでしょう。

00/L0をリッスンモードで起動しているマシンでは、同じポート番号でリッスンモードの00/L0を起動することはできません。しかし、違うポート番号であれば、同時に起動できます。つまり、ともにリッスンモード、かつ、違うポート番号であれば、同時起動できます。

とはいえ、リッスンモードでも、同時起動はトラブルの元になりやすいので、やめておいたほうがいいでしょう。

第3章 変換の流れ

GS00SBCは、次のように、SBC、00/L0とGSを使って変換を実行します。

00/L0のファイルについては、GS00SBCは、00/L0のリッスンモード¹⁾を使って、00/L0のファイルをPDFに変換し、必要ならさらにイメージなどに変換します。



図 3.1 GS00SBC のコンポーネント

3-1 PDF 出力

(1-1) 入力がMS Office などSBCがサポートしているファイルの場合

1) リッスンモードとは、00/L0をGUIではなく、サーバとして動かすモードです。

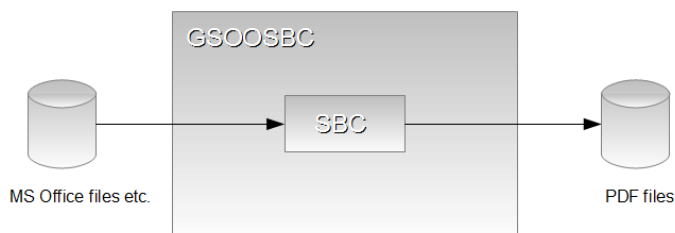


図 3.2 MS Office ファイルなどから PDF へ

(1-2) 入力が、OO/L0 のファイルの場合

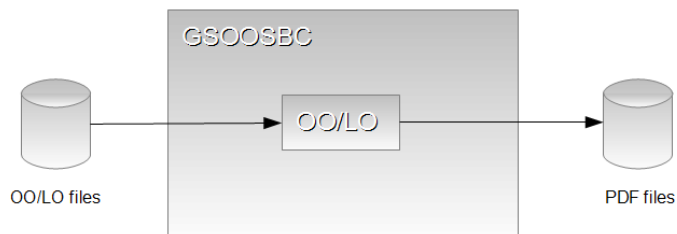


図 3.3 OO/L0 ファイルから PDF へ

3-2 イメージ出力

イメージ出力に、SBC を使うか、GS を使うかは、コマンドラインオプションの `-p` に指定された値で決まります。@で始まる SBC のプリンタ名なら、SBC を使います。それ以外は、GS のデバイス名とみなして GS を使います。

Linux では、SBC によるイメージ出力はできません。GS によるイメージ出力のみです。Windows では、SBC によるイメージ出力と GS によるイメージ出力の両方が可能です。

(2-1) 入力が PDF の場合

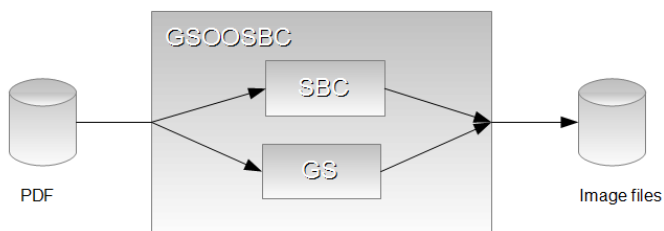


図 3.4 PDF からイメージへ

(2-2) 入力がMS Office などSBCがサポートしているファイルの場合

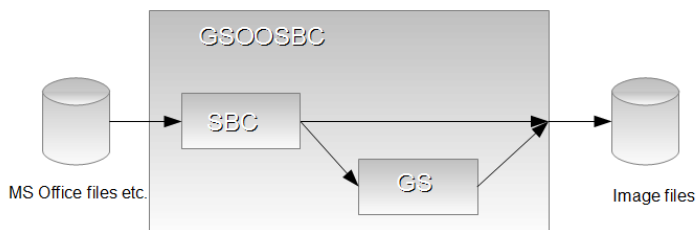


図 3.5 MS Office ファイルなどからイメージへ

(2-3) 入力が00/L0のファイルの場合

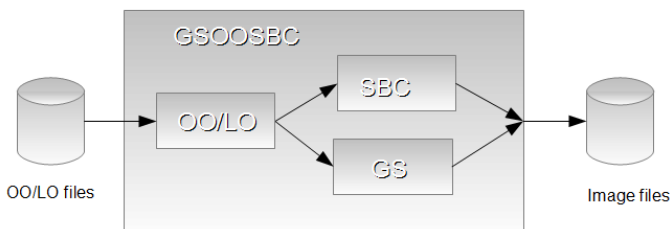


図 3.6 OO/L0 ファイルからイメージへ

3-3 Flash(SWF), SVG, INX, and XPS 出力

(3-1) 入力がPDFの場合

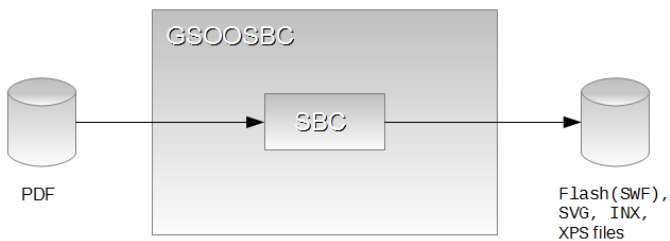


図 3.7 PDF からFlash(SWF), SVG, INX, XPS へ

(3-2) 入力がMS Office などSBCがサポートしているファイルの場合

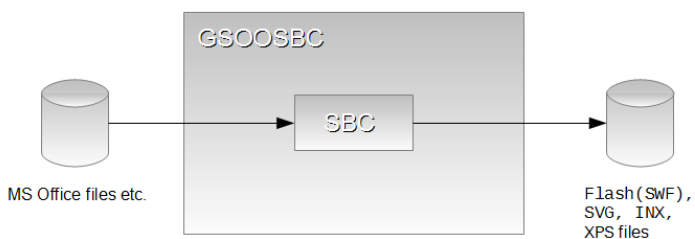


図 3.8 MS Office ファイルなどからFlash(SWF), SVG, INX, XPS へ
 (3-3) 入力が、OO/L0 のファイルの場合

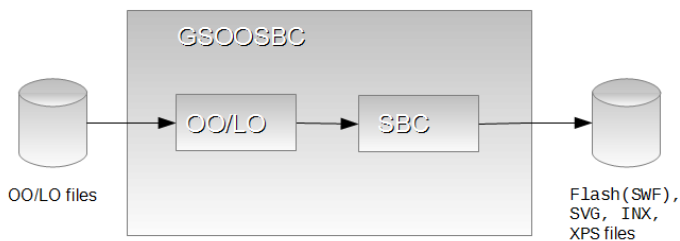


図 3.9 OO/L0 ファイルからFlash(SWF), SVG, INX, XPS へ

第4章 実 行

4-1 プログラムの起動

GS00SBCの実行には、
%GS00SBC_HOME%\bin\gsoosbc.bat (Windowsの場合)
または、
\$GS00SBC_HOME/bin/gsoosbc.sh (Linuxの場合)
を使います。

4-2 環境変数

Linuxでは、\$GS00SBC_HOME/bin/*.shには、実行可能パーミッションをつけてください。

```
cd $GS00SBC_HOME/bin  
chmod +x *.sh
```

必要に応じて、
%GS00SBC_HOME%\bin (Windowsの場合)
または、
\$GS00SBC_HOME/bin (Linuxの場合)
を環境変数PATHに追加してください。
次のコマンドを実行して、GS00SBCのヘルプが出るか確認してください。

Windowsの場合

```
%GS00SBC_HOME%\bin\gsoosbc.bat -?
```

Linuxの場合

```
$GS00SBC_HOME/bin/gsoosbc.sh -?
```

4-3 実行例

以下の例にあるコマンドラインオプションの説明は、「コマンドラインオプション」(p. 23) を読んでください。

出力ファイル名が決まるルールの説明は、「出力ファイル名の決定方法」(p. 27) を読んでください。

1つのファイルを変換

```
gsoosbc test.doc
```

これは、SBC を使って、MS Office ファイル 'test.doc' を 'test.odt.pdf' に変換します。

1つのファイルを変換 (詳細表示モード、MS Office ファイル)

```
gsoosbc -v test.doc
```

これは、実行の詳細を表示し、SBC を使って、MS Office ファイル 'test.doc' を 'test.doc.pdf' に変換します。

1つのファイルを変換 (詳細表示モード、00/L0 ファイル)

```
gsoosbc -v test.odt
```

これは、ポート番号 8100 に接続して、00/L0 ファイル 'test.odt' を 'test.odt.pdf' に変換します。

1つのファイルを変換 (ポート番号指定。詳細表示モード)

```
gsoosbc -v -port 8200 test.odt
```

これは、ポート番号 8200 に接続して、00/L0 ファイル 'test.odt' を 'test.odt.pdf' に変換します。

1つのファイルを変換(出力ファイル名を指定)

```
gsoosbc -o my-test.pdf test.doc
```

これは、SBCを使って、MS Office ファイル' test.doc' を' my-test.pdf' に変換します。

1つのファイルを変換(出力形式を指定。GSによるイメージ出力)

GSによるイメージ出力は、SBC Linux版でもWindows版でも動きます。

GSによるイメージ出力は、-p でGSの出力デバイス名を指定します。

```
gsoosbc -p jpeg test.doc
```

これは、MS Office ファイル' test.doc' を、GSを使って、' test.doc.jpeg' に変換します。

1つのファイルを変換(出力形式を指定。SBCによるイメージ出力)

SBCによるイメージ出力は、SBC Windows版では動きますが、Linux版では動きません。

SBCによるイメージ出力は、-p で、@で始まるSBCのプリンタ名を指定します。

```
gsoosbc -p @PNG test.odt
```

これは、ポート番号8100に接続して、00/L0ファイル' test.odt' を、SBCを使って、' test.odt.png' に変換します。

1つのファイルを変換(出力形式を指定。出力ファイル名を指定。GSによるイメージ出力、MS Officeファイル)

GSによるイメージ出力は、SBC Linux版でもWindows版でも動きます。

GSによるイメージ出力は、-p でGSの出力デバイス名を指定します。

```
gsoosbc -p png16m -o my-test.png test.doc
```

これは、MS Office ファイル' test.doc' を、GS を使って、' my-test.png' に変換します。

1 つのファイルを変換 (出力形式を指定。出力ファイル名を指定。GS によるイメージ出力、00/L0 ファイル)

GS によるイメージ出力は、SBC Linux 版でも Windows 版でも動きます。

GS によるイメージ出力は、-p で GS の出力デバイス名を指定します。

```
gsoosbc -p jpeg -o my-test.jpeg test.odt
```

これは、ポート番号 8100 に接続して、00/L0 ファイル' test.odt' を、GS を使って、' my-test.jpeg' に変換します。

複数のファイルを変換

```
gsoosbc test.doc test1.doc
```

これは、SBC を使って、MS Office ファイル' test.doc' を' test.doc.pdf'、' test1.doc' を' test1.doc.pdf' に変換します。

複数のファイルを変換 (出力ディレクトリ指定)

Windows

```
gsoosbc -d %temp test.odt test1.odt (Windows)
```

これは、ポート番号 8100 に接続して、00/L0 ファイル' test.odt'、' test1.odt' を変換して、%temp の下に、' test.odt.pdf'、' test1.odt.pdf' を作ります。

Linux

```
gsoosbc -d /temp test.odt test1.odt (Linux)
```

これは、ポート番号 8100 に接続して、00/L0 ファイル' test.odt'、

'test1.odt' を変換して、/temp の下に、'test.odt.pdf'、'test1.odt.pdf' を作ります。

複数のファイルを変換 (出力ディレクトリ指定、GS によるイメージ出力)

GS によるイメージ出力は、SBC Linux 版でも Windows 版でも動きます。

GS によるイメージ出力は、-p で GS の出力デバイス名を指定します。

Windows

```
gsoosbc -d %temp -p jpeg test*.pdf
```

PDF ファイル 'test.pdf'、'test1.pdf' がある場合、これは、%temp の下に、GS を使って、test.pdf.jpeg、test1.pdf.jpeg を作ります。

Linux

```
gsoosbc -d /temp -p jpeg test*.pdf
```

PDF ファイル 'test.pdf'、'test1.pdf' がある場合、これは、/temp の下に、GS を使って、test.pdf.jpeg、test1.pdf.jpeg を作ります。

複数のファイルを変換 (出力ディレクトリ指定、SBC によるイメージ出力)

SBC によるイメージ出力は、SBC Windows 版では動きますが、Linux 版では動きません。

SBC によるイメージ出力は、-p で、@で始まる SBC のプリンタ名を指定します。

Windows

```
gsoosbc -d %temp -p @JPEG test*.pdf
```

PDF ファイル 'test.pdf'、'test1.pdf' がある場合、これは、%temp の下に、SBC を使って、test.pdf.jpeg、test1.pdf.jpeg を作ります。

Linux

```
gsoosbc -d /temp -p @JPEG test*.pdf
```

PDF ファイル 'test.pdf', 'test1.pdf' がある場合、これは、/temp の下に、SBC を使って、test.pdf.jpeg、test1.pdf.jpeg を作ります。

複数のファイルを変換 (GS オプションファイル指定。GS によるイメージ出力)

GS によるイメージ出力は、SBC Linux 版でも Windows 版でも動きます。

GS によるイメージ出力は、-p で GS の出力デバイス名を指定します。

```
gsoosbc -gsopt my-gs.opt -p jpeg test*.odt
```

00/L0 ファイル 'test.odt', 'test1.odt' がある場合、これは、ポート番号 8100 に接続して、GS オプションファイルと GS を使って、'test.odt.jpeg', 'test1.odt.jpeg' を作ります。

第5章 コマンドラインオプション

GS00SBC のコマンドラインオプション

```
gsoosbc [-?][-d output_dir][-gsopt gs_option_file][-o  
output_file][-oopdfopt oo_pdf_option_file][-ooport  
port_number][-p output_format][-password password][-sbcopt  
sbc_option_file][-v][-x level] input_files
```

-?

ヘルプメッセージを出します。

-d

出力ディレクトリを指定します。デフォルトは、各入力ファイルと同じディレクトリになります。これは、複数の入力ファイルのときのみ、有効です。入力ファイルが1つだけのときは、無視されます。

-gsopt

GS のオプションファイルを指定します。

-o

出力ファイルを指定します。これは、入力ファイルが1つだけのときに有効です。複数ファイルのときは、無視されます。

-oopdfopt

00/L0 の PDF エクスポートに関するオプションファイルを指定します。

-ooport

00/L0 のリッスンモードのポート番号を指定します。デフォルトは、8100 です。

-p

出力形式を指定します。デフォルトは@PDF です。GS によってイメージファイルを作りたいときは、GS の出力デバイス名を指定します。例 jpeg, png16m。あるいは、SBC によってイメージファイルを作りたいときは、SBC のプリンタ名を指定します。例 @JPEG, @PNG。SBC のプリンタ名@JPEG, @PNG などは、

GS00SBC が Windows で動いているときに有効です。

Ghostscript のデバイス名について詳しい情報は、以下を参照してください。

<http://www.gnu.org/software/ghostscript/devices.html>

SBC のプリンタ名について詳しい情報は、以下を参照してください。

日本語：<http://www.antenna.co.jp/sbc/manual/sbc-xslcmd.html>

英語：<http://rainbowpdf.com/serverdoc/sbc-xslcmd.html>

-password

ソースパスワード (変換元ファイルのパスワード) を指定します。

-sbcopt

SBC のオプションファイルを指定します。

-v

詳細表示モードにします。

-version

バージョン情報を表示します。

-x

SBC のエラー終了レベルを指定します。デフォルトは、2 です。

input_files

入力ファイルです。

詳細表示メッセージ、エラーメッセージなどは、標準エラー出力に出力されます。

これらのメッセージを、ファイルにリダイレクトするには、`gsoosbc` コマンドを次のように使います。

例 1 標準エラー出力のみリダイレクト

```
gsoosbc input_file 2>error.txt
```

例 2 標準出力、標準エラー出力の両方をリダイレクト

```
gsoosbc input_file >error.txt 2>&1
```

第6章 技術資料

6-1 スペースを含むファイル名について

スペースを含むファイル名は、トラブルの元です。スペースを含むファイル名は、使わないほうが賢明です。

binディレクトリの下でのgsoosbc.shは、スペースを含むファイル名を処理できません。スペースを含むファイル名を処理するためには、あなたが、シェルスクリプトを書く必要があります。

サンプルとして、binディレクトリの下に、space-gsoosbc.shがあります。必要に応じて、これを変更してください。

最後の方法として、シェルスクリプトを使わずに、Javaを直接起動する方法があります。

例

```
export GSOOSBC_HOME=~ /gsoosbc-top/gsoosbc
export GS_PROG_PATH=/usr/bin/gso
export OO_PROG_PATH=/opt/openoffice.org3/program/soffice
export SBC_HOME=/usr/ServerBasedConverter
export SBC_LIC_PATH=$SBC_HOME/etc
export SBC_DMC_TBLPATH=$SBC_HOME/sdata/base2
export AHFS10_64_FONT_CONFIGFILE=$SBC_HOME/etc/font-
config.xml
export PATH=$SBC_HOME/bin:$PATH
export LD_LIBRARY_PATH=$SBC_HOME/lib:$LD_LIBRARY_PATH
export CLASSPATH=$SBC_HOME/lib/DfvJavaCtl.jar:$CLASSPATH
export JRE_HOME=${JAVA_HOME}/jre
export MY_JAR=${GSOOSBC_HOME}/lib/gsoosbc-1.0.7.jar
```

これらの環境変数を設定して、Javaを直接実行。

```
${JRE_HOME}/bin/java -cp ${CLASSPATH}:${MY_JAR} -Dgspath=${GS_PROG_PATH} jp.co.antenna.gsoosbc.Gs0oSbc -v "~/test-data/dir with space/test.doc"
```

6-2 ソースパスワードとターゲットパスワードの違い

暗号化された入力ファイルに設定されているパスワードを、ソースパスワードと呼びます。

出力するPDFに設定するパスワードを、ターゲットパスワードと呼びます。

ソースパスワードは、`-password` オプションで指定します。

SBCでPDFを出力する場合、ターゲットパスワードは、`-sbcopt` オプションで指定します。

00/L0でPDFを出力する場合、ターゲットパスワードは、`-oopdfopt` オプションで指定します。

6-3 出力ファイル名の決定方法

出力ファイル名は、以下のように決まります。

(1) 入力ファイルが1つだけの場合

(1-1) `-o` で出力ファイルが指定されている

出力ファイル名は、

`-o` で指定されたファイル

(1-2) `-o` がない

(1-2-1) `-d` で出力ディレクトリが指定されている

出力ファイル名は、

`-d` で指定された出力ディレクトリ + 入力ファイル名
+ 出力形式の拡張子

(1-2-2) `-d` がない

出力ファイル名は、

入力ファイル名 + 出力形式の拡張子

(2) 入力ファイルが複数の場合

`-o` は、無視される。

(2-1) -dで出力ディレクトリが指定されている

出力ファイル名は、

-dで指定された出力ディレクトリ + 各入力ファイル名 +
出力形式の拡張子

(2-2) -dがない

出力ファイル名は、

各入力ファイル名 + 出力形式の拡張子

入力ファイルのディレクトリが違えば、出力ファイルも違うディレクトリになる。

6-4 Server Based Converter のオプションファイル

コマンドラインオプションの-sbcopt は、SBC に対するオプションを書いたファイルを指定します。

-sbcopt は、SBC で、PDF、イメージ、Flash(SWF)、SVG、INX、XPS を出力するときに使います。

00/L0 のファイルを PDF にするときには、-sbcopt ではなく、-oopdfopt を使います。「変換の流れ」の「PDF 出力」(p. 12) を参照してください。

SBC の Java インターフェースのオブジェクト jp.co.antenna.DfvObj に対して、API を呼び出すことで、オプションを指定します。

jp.co.antenna.DfvObj の API については、以下を参照してください。

英語版 API 仕様

<http://rainbowpdf.com/serverdoc/javadoc/index.html>

日本語版 API 仕様

<http://www.antenna.co.jp/sbc/manual/V4.0/javadoc/index.html>

ファイルの形式

オプションファイルは、UTF-8 で書いてください。

英語だけなら ASCII で書くことが可能です。

行頭に#があるとコメント行です。

各行に API 名とパラメータを、空白かタブで区切って並べます。
パラメータの形式は、次の通り。

10 進数は、'0' から '9' の数字の列。例 10。

文字列は、" でくる。例 "MyString"。

ブール値は、true か false。

API の例

setStartPage	10
setWatermarkText	"My Test Document"
setOmitBlankPages	true

サンプルファイルは、bin/sbcopt-sample.opt です。

注意

API の指定が、DfvObj の API 仕様と合っていないと結果は保証されません。

API が呼ばれていることを表示するには、コマンドラインオプション `-v` が必要です。

setPdf で始まる API は、OpenOffice/LibreOffice 以外のファイルを、SBC を使って PDF に変換するとき有効です。

DfvObj の API のうち、以下は、無効です。

excute, releaseObjectEx, render, getXXX

set で始まる XXX のうち、以下は、無効です。

setDocumentURI, setExitLevel, setMessageListener

setOutputFilePath, setFormatPageListener, setPrinterName

設定例

例 1

1 ページのみ出力。濃い透かし「Test」を入れる。

setEndPage	1
setWatermarkText	"Test"
setWatermarkOpacity	"100%"

6-5 OpenOffice/LibreOffice の PDF エクスポートオプションファイル

コマンドラインオプションの `-oopdfopt` は、OO/L0 の PDF エクスポートに対するオプションを書いたファイルを指定します。

`-oopdfopt` は、OO/L0 のファイルを PDF にするときに使います。「変換の流れ」の「PDF 出力」(p. 12) を参照してください。

SBC で、PDF、イメージ、Flash(SWF)、SVG、INX、XPS を出力するときは、`-oopdfopt` ではなく、`-sbcopt` を使います。

ファイルの形式

オプションファイルは、UTF-8 で書いてください。

英語だけなら ASCII で書くことが可能です。

行頭に # があるとコメント行です。

各行にオプション名とパラメータを、空白かタブで区切って並べます。

パラメータの形式は、次の通り。

10 進数は、0 から 9 の数字の列。例 10。

文字列は、" でくる。例 "MyString"。

ブール値は、true か false。

オプションの例

<code>EncryptFile</code>	<code>true</code>
<code>DocumentOpenPassword</code>	<code>"test"</code>

サンプルファイルは、bin/oopdf-sample.opt です。

注意

オプションの指定が、OO/L0 の仕様と合っていないと結果は保証されません。

オプションの説明

以下で、たとえば、

Quality	Integer	90
---------	---------	----

という行は、

オプション名	パラメータ型	既定値
--------	--------	-----

を意味しています。

より詳細な説明は、以下のリンクを参照してください。

OpenOffice

http://wiki.openoffice.org/wiki/Documentation/00o3_User_Guides/Getting_Started/Exporting_to_PDF

LibreOffice

http://help.libreoffice.org/Common/Export_as_PDF

LibreOffice

http://help.libreoffice.org/Common/Export_as_PDF/ja

[全般] タブ

[範囲]

PageRange	String	""
出力範囲を指定する。空文字列は、全部出力する。		
ページ範囲をエクスポートする場合は、3-6 の形式で指定する。単独のページを複数箇所エクスポートする場合は、7;9;11 の形式で指定する。ページ範囲と単独ページの指定を 3-6;8;10;12 のような形式で組み合わせて使用することもできる。		

[イメージ/画像]

UseLosslessCompression	Boolean	false
ロスレス圧縮を指定する。		
Quality	Integer	90
JPEG 圧縮の品質をパーセントで指定する。		
ReduceImageResolution	Boolean	false
画像の解像度を下げる。		

[一般/全般]

IsAddStream	Boolean	false
OpenDocument ファイルを埋め込む。		
SelectPdfVersion	Integer	0
PDF のバージョンを指定する。		
0: PDF 1.4		
1: PDF/A-1a		
UseTaggedPDF	Boolean	false
タグ付き PDF を指定する。		
ExportFormFields	Boolean	true
フォームの作成を指定する。		
FormsType	Integer	0
送信フォーマットを指定する。		
0: FDF		
1: PDF		
2: HTML		
3: XML		
AllowDuplicateFieldNames	Boolean	false
フィールド名の重複を許す。		
ExportBookmarks	Boolean	true
ブックマークをエクスポート。		
ExportNotes	Boolean	false
コメントをエクスポート。		
ExportNotesPages	Boolean	false
コメントページをエクスポート。		
プレゼンテーション (Impress) のみ有効。		

IsSkipEmptyPages	Boolean	true
自動的に挿入された空白ページをエクスポートするかスキップするか。		
EmbedStandardFonts	Boolean	false
標準フォントを埋め込む。		

【初期値】タブ

[区画/ナビゲーションパネル]

InitialView	Integer	0
初期表示を指定する。		
0: ページのみ		
1: ブックマークとページ		
2: サムネイルとページ		
mnInitialPage	Integer	1
リーダーがPDF ファイルをオープンしたとき、表示するページを指定する。		

[拡大率]

Magnification	Integer	0
拡大方法を指定する。		
0: 標準		
1: ウィンドウに合わせる		
2: 幅を合わせる		
3: 表示を合わせる		
4: ズーム		
Zoom	Integer	100
ズーム率をパーセントで指定する。		

[ページレイアウト]

PageLayout	Integer	0
ページレイアウトを指定する。		
0:	標準	
1:	単一ページ	
2:	連続	
3:	連続見開き	

[ユーザインターフェース]タブ

[ウィンドウオプション]

ResizeWindowToInitialPage	Boolean	false
最初のページに合わせてウィンドウサイズを変更する。		
CenterWindow	Boolean	false
ウィンドウを画面中央に揃える。		
OpenInFullScreenMode	Boolean	false
全画面表示モードで開く。		
DisplayPDFDocumentTitle	Boolean	false
ドキュメントタイトルを表示する。		

[ユーザインターフェースオプション]

HideViewerMenubar	Boolean	false
メニューバーを隠す。		
HideViewerToolbar	Boolean	false
ツールバーを隠す。		
HideViewerWindowControls	Boolean	false
ウィンドウコントロールを隠す。		

[切り替え]

UseTransitionEffects	Boolean	true
----------------------	---------	------

切り替え効果を使用する。

[ブックマーク]

OpenBookmarkLevels	Integer	-1
--------------------	---------	----

オープンするブックマークの階層。
 -1: すべてのブックマーク
 1以上: 指定したレベルのブックマークをオープン

[リンク]タブ

ExportBookmarksToPDFDestination	Boolean	false
---------------------------------	---------	-------

ブックマークを指定した宛先としてエクスポートする

Convert00oTargetToPDFTarget	Boolean	false
-----------------------------	---------	-------

参照しているドキュメントも PDF の対象として変換する

ExportLinksRelativeFsys	Boolean	false
-------------------------	---------	-------

ファイルシステムの相対 URL にエクスポートする

[クロスドキュメントリンク]

PDFViewSelection	Integer	0
------------------	---------	---

0: 標準モード
 1: PDF リーダーアプリケーションで開く
 2: インターネットブラウザで開く

[セキュリティ]タブ

[パスワードの設定]

EncryptFile	Boolean	false
-------------	---------	-------

ファイルを暗号化する。

DocumentOpenPassword	String	""
オープンパスワードを指定する。		
RestrictPermissions	Boolean	false
許可を制限する。		
PermissionPassword	String	""
制限パスワードを指定する。		

[印刷]

Printing	Integer	2
印刷の許可を指定する。		
0: 許可しない		
1: 低解像度 (150 DPI)		
2: 高解像度		

[変更]

Changes	Integer	4
変更の許可を指定する。		
0: 許可しない		
1: ページの挿入、削除、回転のみ許可		
2: フォームフィールドへの入力のみ許可		
3: フォームフィールドへのコメントと入力のみ許可		
4: ページの抽出以外のすべての変更を許可		
EnableCopyingOfContent	Boolean	true
内容の抽出を有効にする。		
EnableTextAccessForAccessibilityTools	Boolean	true
アクセシビリティツールのテキストアクセスを有効にする。		

設定例

例1

文書を開くパスワードの設定により、暗号化する。
パスワードは、"test"。

```
EncryptFile    true
DocumentOpenPassword  "test"
```

例2

権限パスワードの設定により、印刷できないようにする。
パスワードは、"test"。

```
RestrictPermissions  true
PermissionPassword   "test"
Printing             0
```

例3

権限パスワードの設定により、印刷、変更、内容のコピーができないようにする。

パスワードは、test。

```
RestrictPermissions  true
PermissionPassword   "test"
Printing             0
Changes              0
EnableCopyingOfContent  false
```

例4

文書を開くパスワードの設定により、暗号化する。
パスワードは、test。

権限パスワードの設定により、印刷、変更、内容のコピーができないようにする。

パスワードは、foobar。

文書を開くパスワードと権限パスワードが違うことに注意。

```
EncryptFile      true
DocumentOpenPassword  "test"
RestrictPermissions true
PermissionPassword  "foobar"
Printing         0
Changes          0
EnableCopyingOfContent false
```

6-6 GhostScript のオプションファイル

コマンドラインオプションの-gsopt は、GS に対するオプションを書いたファイルを指定します。

-gsopt は、GS で、イメージを出力するときに使います。「変換の流れ」の「イメージ出力」(p. 13) を参照してください。

SBC で、イメージを出力するときは、-gsopt ではなく、-sbcopt を使います。

GhostScript の使い方、オプションについては、以下を参照してください。

GNU GhostScript

<http://www.gnu.org/software/ghostscript/>

How to use Ghostscript

<http://www.ghostscript.com/doc/current/Use.htm>

注意

GS の出力イメージフォーマットは、このファイルではなく、GS00SBC のコマンドラインの-p オプションの引数で指定します。

使用できる出力イメージフォーマットは、GS の出力デバイス名です。

例 1: JPEG 出力

-p jpeg

例 2: PNG 出力

-p png16m

出力デバイス名など、GS の出力デバイスについては、以下を参照してください。

Details of Ghostscript output devices

<http://www.ghostscript.com/doc/current/Devices.htm>

Ghostscript Devices

<http://www.gnu.org/software/ghostscript/devices.html>

ファイルの形式

オプションファイルは、UTF-8 で書いてください。

英語だけなら ASCII で書くことが可能です。

行頭に#があるとコメント行です。

GS_FILE_NUMBERING_FORMAT で始まる行は、出力ファイル名の番号付けの書式を指定します。

%以降の書式指定の詳細は、

[http://www.ghostscript.com/doc/current/](http://www.ghostscript.com/doc/current/Use.htm#One_page_per_file)

[Use.htm#One_page_per_file](http://www.ghostscript.com/doc/current/Use.htm#One_page_per_file)

を参照してください。

GS_FILE_NUMBERING_FORMAT 行は、GS_FILE_NUMBERING_FORMAT とパラメータが、空白かタブで区切られています。

GS00SBC は、パラメータを、出力ファイル名のファイル拡張子の前に挿入して、GS の出力ファイル名にします。

例:

```
GS_FILE_NUMBERING_FORMAT -%03d
```

入力ファイル名 foo.pdf、出力ファイル名が foo.jpeg のとき、“-%03d”を指定すると、GS に指定する出力ファイル名は、foo-%03d.jpeg になります。

これは、最終的に、foo-001.jpeg、foo-002.jpeg などとなります。

GS_FILE_NUMBERING_FORMAT 以外の行は、GS のオプションになります。

GS00SBC は、複数の行を、空白で連結して、GS のオプションを作ります。

オプションの挙動は、GS の実装に依存します。

サンプルファイルは、bin/gsopt-sample.opt です。

注意

以下のオプションは、使わないでください。これらは、GS00SBCが設定します。

```
-dSAFER  
-dBATCH  
-dNOPAUSE  
-o  
-sDEVICE  
-sOutputFile
```

設定例

例 1

```
# 静かなモード  
-q  
# サムネイル用に、最初のページだけ出力  
-dLastPage=1  
# 32 ピクセル * 32 ピクセルのイメージ  
-g32
```

例 2

```
# 静かなモード  
-q  
# ファイル名のナンバリング形式  
GS_FILE_NUMBERING_FORMAT -%03d
```

例 3

```
# 静かなモード  
-q  
# ファイル名のナンバリング形式  
GS_FILE_NUMBERING_FORMAT -%03d  
# 640 ピクセル * 480 ピクセルのイメージ  
-g640x480
```

例4

```
# 静かなモード
-q
# ファイル名のナンバリング形式
GS_FILE_NUMBERING_FORMAT -%03d
# 300dpi
-r300
# テキストとグラフィックスのアルファビットを設定
-dTextAlphaBits=4
-dGraphicsAlphaBits=4
```

改訂履歴

2012年11月15日

1.0版 GS00SBC 1.0用の初版。

2013年01月31日

1.1版 GPL GhostScript のダウンロード先を改訂。

2013年02月14日

1.2版 スペースを含むファイル名について、記述を追加。

2013年02月26日

1.3版 実行例を改訂。

2013年05月28日

1.4版 「OpenOffice/LibreOffice のリッスンモードの起動と終了」を改訂。

2013年06月14日

1.5版 構成を大幅に変更。

2013年06月27日

1.6版 スペースを含むファイル名について、記述を追加。

図 一 覧

第1章 概要

図 1.1 GS00SBC components (p. 2)

第3章 変換の流れ

図 3.1 GS00SBC のコンポーネント (p. 12)

図 3.2 MS Office ファイルなどから PDF へ (p. 13)

図 3.3 OO/LO ファイルから PDF へ (p. 13)

図 3.4 PDF からイメージへ (p. 14)

図 3.5 MS Office ファイルなどからイメージへ (p. 14)

図 3.6 OO/LO ファイルからイメージへ (p. 15)

図 3.7 PDF から Flash(SWF), SVG, INX, XPS へ (p. 15)

図 3.8 MS Office ファイルなどから Flash(SWF), SVG, INX, XPS へ (p. 16)

図 3.9 OO/LO ファイルから Flash(SWF), SVG, INX, XPS へ (p. 16)

索引

アルファベット

Flash(SWF) 出力 15
 Server Based Converter 28
GhostScript 1, 3
 オプションファイル 23, 38
 実行例 19, 20, 21, 22
 出力デバイス名 23
GS 1
GSOOSBC 1
 概要 1
 コマンドラインオプション 23
 実行 17
 実行例 18
 準備 3
 必要なソフト 3
 変換の流れ 12
GSOOSBC_HOME
 環境変数 5
GS_PROG_PATH
 環境変数 7
INX 出力 15
 Server Based Converter 28
Java 3
JAVA_HOME
 環境変数 4
LibreOffice 1, 3, 7, 10
 PDF 出力 30
 オプションファイル 23, 30
 実行例 18, 19, 20
LO 1
MS Office 1
 実行例 18, 19, 20
OO 1
OO/LO 1

OO_PROG_PATH
 環境変数 5
OpenOffice 1, 3, 7, 10
 PDF 出力 30
 オプションファイル 23, 30
 実行例 18, 19, 20
PATH
 環境変数 17
PDF 1
PDF 出力 12
 LibreOffice 30
 OpenOffice 30
 Server Based Converter 28
 実行例 18, 19, 20
SBC 1
Server Based Converter 1, 3
 Flash(SWF) 出力 28
 INX 出力 28
 PDF 出力 28
 SVG 出力 28
 XPS 出力 28
 イメージ出力 28
 オプションファイル 24, 28
 実行例 18, 19, 20, 21
 プリンタ名 23
SVG 出力 15
 Server Based Converter 28
XPS 出力 15
 Server Based Converter 28

あ

イメージ出力 13
 38
 Server Based Converter 28
 実行例 19, 20, 21, 22

オプションファイル
GhostScript 23, 38
LibreOffice 23, 30
OpenOffice 23, 30
Server Based Converter 24, 28

か

概要

GS00SBC 1
環境変数 4
GS00SBC_HOME 5
GS_PROG_PATH 7
JAVA_HOME 4
OO_PROG_PATH 5
PATH 17
コマンドラインオプション
GS00SBC 23

さ

実行

GS00SBC 17
実行可能パーミッション 17
実行例
GhostScript 19, 20, 21, 22
GS00SBC 18
LibreOffice 18, 19, 20
MS Office 18, 19, 20
OpenOffice 18, 19, 20
PDF出力 18, 19, 20
Server Based Converter 18, 19,
20, 21

イメージ出力 19, 20, 21, 22
出力形式 23
出力デバイス名
GhostScript 23
準備
GS00SBC 3
ソースパスワード
パスワード 24, 27

た

ターゲットパスワード
パスワード 27

は

パスワード
ソースパスワード 24, 27
ターゲットパスワード 27
必要なソフト
GS00SBC 3
ファイル形式 2
プリンタ名
Server Based Converter 23
変換先ファイル形式 2
変換の流れ
GS00SBC 12
変換元ファイル形式 2
ポート番号 23

ら

リッスンモード 7, 10, 23

GS00SBC マニュアル

2012/11/15 1.0 GS00SBC 1.0 用の初版。

2013/06/27 1.6 スペースを含むファイル名について、記述を追加。

アンテナハウス株式会社

Copyright (C) 2012-2013 Antenna House, Inc. All rights reserved.

